

## ダウ ン 症 児 の 早 期 療 育

伊 東 俊 一 都 立 多 摩 療 育 園  
 舟 橋 満 寿 子 同  
 石 田 宏 代 同

〔要約〕 0歳から2歳のダウン症児に対し、早期療育を行ない、その効果について、聴力及び精神発達指数の面から検討し、早期療育を受けていないダウン症児のそれらと比較した。聴力・精神発達指数いずれにおいても、療育群はコントロール群に比し、大きい発達変化が認められた。

〔目的〕 0歳から2歳のダウン症児に対し、言語と運動の発達を促進するための早期療育を行なった。その療育効果を測定するため、聴力と精神発達指数の変化を検討した。

〔対象〕 過去3年間に当園の早期療育プログラムに参加したダウン症児34名（いずれも21トリソミー）を対象とした。これらの療育開始時における年齢と人数は、0カ月～6カ月6名、7カ月～12カ月10名、13カ月～18カ月10名、19カ月～24カ月8名であった。当園外来を受診したが早期療育プログラムは参加しなかったダウン症児62名（年齢2カ月～5歳）をコントロール群とした。

〔方法〕 対象児を、その発達年齢を考慮して4グループにわけ、集団指導と個別指導を併行して療育を行なった。療育期間は各グループとも10カ月であった。療育プログラムは、「低緊張」「聴性反応不良」というダウン症児の特徴を考慮して、運動訓練と聴能訓練に重点をおいた。各グループの療育目標と内容は表1の通りであった。療育には、言語・心理・理学・作業・音楽各療法士があたった。

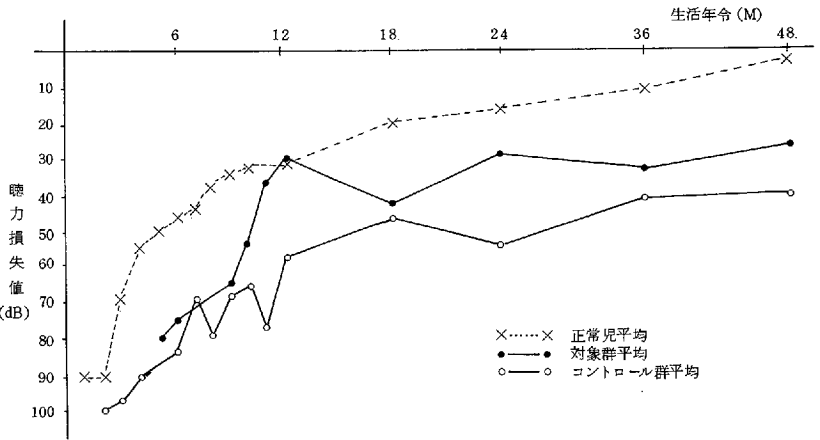
表1 各グループの療育目標と内容

	発達年齢	目 標	内 容	療育回数
A	1才前	障害の認知（保護者に対して） 諸感覚の刺激	ダウン症児についての講義と話し合い（保護者に対して） 定額からハイハイ 音や物の存在に気づかせる	月 2 回
B	1才前半	基本動作の習得	ハイハイから独歩 音源定位 注 視 目と手の協応	月 2 回
C	1才後半 2才	応用動作の習得	歩行・連続動作 模倣行動 聴覚的および視覚的マッチング行動	週 1 回
D	2才前半 3才	言語理解・表現の習得	聴覚的認知 視覚的認知	月 3 回

療育開始時と終了時に、条件詮索反射聴力検査または遊戯聴力検査、MCCベビーテスト、Bailey Scale of Infant Development、運動発達評価を実施した。

〔結果と考察〕 図1に、対象群の生活年齢による聴力域値（1 KHz の聴力損失値）の発達変化を示し、コントロール群および田中ら（1979）の正常児の聴力域値と比較した。対象群は、12カ月までの間に域値が下降し、その後は緩徐な下降を示す傾向が認められた。正常児が3カ月から8カ月頃のために急速な下降を示し、その後緩徐となる傾向とくらべ、対象群は域値の発達の時期がずれることが見出された。コントロール群は、域値の下降の速度が対象群にくらべて、ゆるやかであった。各年齢における正常児との域値差

図1 生活年齢と聴力損失値の変化



は、対象群が平均10dB～20dBであるのに比し、コントロール群は30dB～40dBであった。

次に、対象群の療育開始時の年齢別に、6カ月毎の聴力域値の変化を表2に示した。この結果、早期に療育を開始するほど、早期に域値が下降し、

表2 療育開始年齢別にみた聴力損失値（平均）の変化

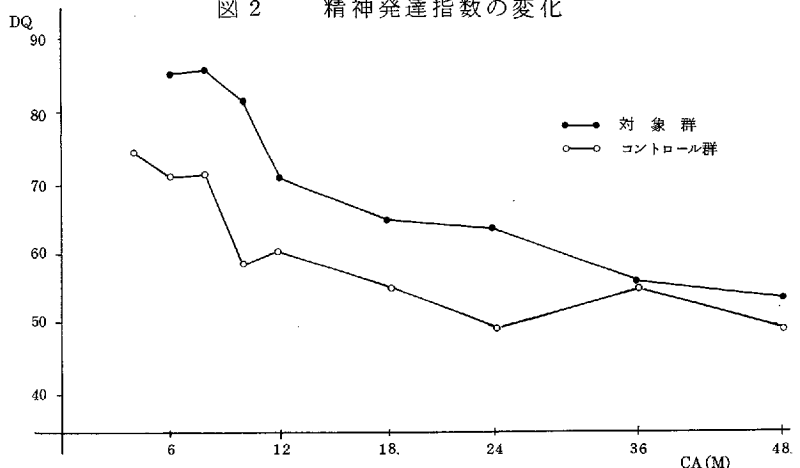
検査時年齢	療育開始年齢			
	0～6M	7～12M	13～18M	19M～
	6	10	10	8
0～6M	95.8dB			
7～12M	58.3dB	69.5dB		
13～18M		32.5dB	60dB	
19～24M		22.5dB	42dB	52.5dB
25～36M			31dB	41.3dB
37M～				24.3dB

早期に正常児の域値に近づく傾向がみられた。以上のことから、(1)ダウン症児の聴力域値の発達は、正常児にくらべ遅れる。しかし(2)療育を行なうことにより、その発達の速度は早まり、また早期に療育を行なうほどその効果が大きいことが明らかとなった。

次にMCCベビーテストで測定した精神発達指数の変化を図2に示した。対象群・

コントロール群とも、発達指数は年齢とともに下降したが、対象群のほうが、各年齢においてやや高い発達指数を保つ傾向がみとめられた。

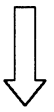
図2 精神発達指数の変化



今回の検討により、ダウン症児に早期療育を行なうことにより、聴力域値と精神発達指数において、療育の効果が認められた。このような効果が、対象群の今後の言語発達にどのように影響するかを、次年度において検討したい。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔要約〕

0歳から2歳のダウン症児に対し、早期療育を行ない、その効果について、聴力及び精神発達指数の面から検討し、早期療育を受けていないダウン症児のそれらと比較した。聴力・精神発達指数いずれにおいても、療育群はコントロール群に比し、大きい発達変化が認められた。